

基本目標2 「育み・学び・思いやり」の質の高いまち

分野別政策6 生涯にわたる多様な学びの推進

施策 No. 17 生涯スポーツ活動の振興

10年後のめざす姿 スポーツに取り組む環境づくりが進み、誰もがスポーツに親しむことができ、地域コミュニティ形成や、市民の健康づくりにつながっています。

住みよさ指標	当初	単位	実績値の推移					目標値 (H37)	評価	
			H28	H29	H30	H31	H32			
1 「スポーツ施設や活動などの環境」に関する市民満足度	12.6	%	目標値	14.0	18.0			20.0	30.0	→
			実績値	10.9						
2 スポーツ施設利用率	41.6	%	目標値	43.0	43.0			50.0	55.0	→
			実績値	40.0						
3 学校開放事業利用者数	375,041	人	目標値	376,000	377,000			380,000	400,000	↘
			実績値	281,425						
4 市民スポーツ大会参加者数	7,171	人	目標値	7,200	9,500			7,500	8,000	○
			実績値	9,313						

総合評価	住みよさ指標の状況
C	<p>「スポーツ施設や活動などの環境」に関する市民満足度については、下里運動公園人工芝球技場のオープンに伴い、増加した。</p> <p>スポーツ施設利用率については、下里運動公園人工芝球技場がオープンしたものの、当施設の昼間の利用率が低いために、全体として横ばいとなっている。</p> <p>学校開放事業利用者数については、少子化や高齢化に伴う指導者不足の影響で、各スポーツクラブの会員数が減少しているために、全体として、減少した。</p> <p>市民スポーツ大会参加者数については、総合スポーツ振興会と連携したスポーツ啓発の実施により、増加した。</p>
施策を構成する事業の状況	
<p>小学生のスポーツに対する意識の高揚により、小学生駅伝大会の参加者が増加した。</p> <p>人口の減少や小中学生の生徒数の減少に伴い、各スポーツクラブ内の会員数も減少しており、全体の利用者数の減少につながった。</p> <p>下里運動公園・人工芝球技場のオープンに伴い、施設利用人数やオーパスシステムの登録者数は増加したが、施設増加による平日の昼間の空き状況が増えたため、利用率は低下した。</p> <p>各スポーツ団体は、その役員や会員に高齢化が見られ、加入者総数は減少しているが、市民スポーツの振興により、一般市民の市民スポーツ大会への参加が増加した。</p>	

これまでの取組み	<p>余暇時間の増大や健康志向の高まりにより、運動・スポーツへの関心が高まっており、誰もが楽しめる生涯スポーツの充実が求められています。</p> <p>本市では、市民の健康づくりや地域コミュニティの活性化に向けて、総合型地域スポーツクラブなどの地域団体を通じスポーツ振興及びスポーツ人口の拡大を図るとともに、地域スポーツ活動の場として学校の施設を開放し、活性化を図っています。</p> <p>スポーツ推進委員による新しいスポーツの取り組みの研究・啓発や情報の発信、老朽化したスポーツ施設の計画的な整備に取り組んでいます。</p>
課題 (めざす姿との差)	<p>スポーツに親しみのない市民へ関心を向ける何らかの取り組みが必要である。また、学校施設の利用について、市民目線に立った簡潔な利用方法を考える必要がある。</p> <p>また、市内スポーツ施設については、かなりの老朽化が進んでおり、修繕等の早急な対応が求められているので、指定管理者との情報共有が今後さらに重要となってくる。</p>
今後の方向性	<p>平成29年度以降は、小学生対象事業の充実を図ると共に、対象をスポーツに親しみのない一般社会人や高齢者などに目を向けて、事業の拡充を図る。</p> <p>市民に学校施設を気軽に利用してもらえるように、事業の見直しや学校開放システムの整備に努める。</p> <p>下里運動公園を除く施設は、老朽化が著しく、スポーツ施設計画の見直しを図り、計画的な整備に取り組む。</p> <p>平成29年度より新しい指定管理者に替わることに伴い、更に利便性の向上に向けたスポーツ施設の運営管理の充実を努める。</p>